

現代ビジネス学部
YASUDA Yasuharu
PROFILE
職名 現代ビジネス学部 現代マネジメント学科准教授
学歴 島根県立出雲高等学校卒業 (1982)
学位 博士（学術）（神戸大学、 2008）
所属学会 日本臨床救急医学会、日本 救急医学会、日本集団災害 医学会、European Resuscitation Council
専門分野 救急現場活動学

安田 康晴

やすだ やすはる

研究課題1 ●救急活動時の身体負担に関する研究

研究課題2 ●ICTを用いた口頭指導に関する研究

研究課題3 ●救急隊員のCPRの質の向上に関する研究

業 績

【著書】

『プレホスピタル外傷学』／永井書店、2002年、共著。

『JPTECプロバイダーマニュアル』／プラネット、2003年、共著。

『救急スキルブック』／荘道社、2004年、共著。

『JPTECガイドライン』／プラネット、2005年、共著。

『救急救命士国家試験対策必修ポイントテキスト』／荘道社、2006年、共著。

『プレホスピタルでの搬送トリアージ』／エマーゼンシー・ケア、2006年、共著。

『災害医療—救急医・救急看護師・救急救命士のための災害マニュアル—』／メディ
カ出版、2007年、共著。

『この傷病者、投与しますか？(2) (特集 プレホスピタルにおける薬剤投与)』／エマ
ージェンシー・ケア、2007年、単著。

『救急救命士に伝えたい基本的な知識と技術（特集 救急現場の基本技術の枠組みと
考え方)』／エマーゼンシー・ケア、2007年、共著。

『救急処置スキルマスター』／荘道社、2009年、単著。

『救急活動の法律相談』／新日本法規出版、2010、共著。

『プレホスピタルMOOK 後輩たちに伝えたい救急現場活動のプロの技』／永井書
店、2010年11月、編者。

【学術論文】

「自動心臓マッサージ器の有効な活用について」／『プレホスピタル・ケア』10(1)、
1997年、共著。

「屋内で発生した偶発性低体温の2例」／『プレホスピタル・ケア』11(1)、1998年、共著。

「119番受信時に呼吸があり救急隊員到着時に心肺停止であった7例の検討」／『プレ
ホスピタル・ケア』11(4)、1998年、共著。

「救急蘇生指標・特定行為データベースの作成」／『プレホスピタル・ケア』8(3)、
1999年、共著。

「救急現場における感染防止対策の現状と対策—標準予防策の導入—」／『プレホス
ピタル・ケア』14(2)、2001年、共著。

「本邦におけるショックパンプの使用の現状と課題」／『プレホスピタル・ケア』14
(4)、2001年、共著。

「救急現場における感染防止対策の現状と課題」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2001
年、共著。

「ショックパンプはアナフィラキシーショックに有効か—血圧上昇を目的とした使
用について—」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2002年、共著。

「BTLS、PTCJからPTECへ（特集 外傷現場の救命処置)』／『救急医療ジャーナ
ル』、2003年、共著。

「標準化教育における視聴覚教材の効果」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2004年、共著。

「ショックパンプはアナフィラキシーショックに有効か—血圧上昇を目的とした使用について—」／『日本臨床
救急医学会雑誌』、2004年、共著。

「インターネットを活用した救急隊員教育の効果と課題」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2005年、共著。

「救急業務データの電子化システムの問題点に関する検討」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2005年、共著。

「わが国のメディカルコントロール体制およびデータ管理の現状と問題点」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2006年、共著。

「救急業務電子化データシステム携帯端末の開発と展望」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2006年、共著。

「救急救命士における薬剤投与教育の現状と問題点の抽出」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2006年、共著。

「地方における薬剤投与講習の実施方法と課題」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2006年、共著。

「救急業務データ管理システム導入による効果検証—時間因子への影響に関する研究—」／『日本臨床救急医学
会雑誌』、2006年、共著。

「消防学校消防職員専科救急科教育の現状と課題—実習に関するアンケート調査から—」／『日本臨床救急医学
会雑誌』、2008年、単著。

「救急隊員のCPRの質を向上させるためのトレーニング方法の検討」／『日本臨床救急医学会雑誌』、2009年、単著。

「救急活動時の筋活動に関する研究」／『国士舘大学体育研究所報』、2009年、単著。

「胸骨圧迫心臓マッサージのトレーニング方法に関する研究—床と救急車内の胸骨圧迫深度の比較—」／『体育
スポーツ科学学会』、2009年、単著。

「救急活動時の身体負担の検討と負担軽減の方策について—ボディメカニクスの検討—」／『平成21年度消防防
災科学技術論文集』、2009年、単著。

「救急活動時の身体負担の現状」／『日本臨床救急医学会雑誌』第13巻第5号、2010年10月、単著。

「救急車内での胸骨圧迫心臓マッサージの質に関する研究」／『日本臨床救急医学会雑誌』第13巻第6号、2010
年10月、単著。

【国内学会発表】

「救急現場における薬剤投与手技の時間短縮についての検討」／第10回日本臨床救急医学会総会（神戸市）、
2007年、単独。

「セルフラーニングスキルトレーニングシステムによるCPRのクオリティの向上について」／第10回日本臨
床救急医学会総会（神戸市）、2007年、単独。

「住宅内での心肺停止に対する早期除細動システムに関する研究」／第11回日本臨床救急医学会総会（東京都）、
2007年、単独。

「救急活動時における筋肉負担に関する研究—救急活動時における筋肉負担に関するアンケート調査結果から
—」／第12回日本臨床救急医学会総会（大阪市）、2009年、単独。

「救急活動時における筋肉負担に関する研究—ストレッチャー上げ動作時の筋肉的負担の身体生理学的検討か
ら—」／第12回日本臨床救急医学会総会（大阪市）、2009年、単独。

「胸骨圧迫心臓マッサージの常に正しく行われているか？—床面と救急車内の胸骨圧迫深度の比較—」／第12
回日本臨床救急医学会総会（大阪市）、2009年、単独。

「救急活動時の身体負担の検討と負担軽減の方策について—ボディメカニクスの検討—」／第57回全国消防技
術者会議、2009年、単独。

「床と救急車走行中の胸骨圧迫心臓マッサージの検討」／第13回日本臨床救急医学会総会、千葉、2010年6月1
日、単独。

「救急活動時における身体負担に関する研究—ストレッチャー上げ動作時の筋活動的検討から—」／第21回日
本バイオメカニクス学会、東京、2010年8月30日、単独。

【国際学会発表】

「The change of japanese paramedic system and a life saving effect by paramedics. The Korean Society of
Emergency Medicine」—Korea-Japan EMS conference. (2007.)

「The causes of low quality chest compression during ambulance transportation.」／10th scientific congress
of the european resuscitation council, Port, 2010.12.3.